

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①粘り強く学習に取り組ませるとともに、学習内容を振り返って調整し、探究心を持って学びを深めようとする態度を培う。 ②主体的、対話的で深い学びを目指した授業改善を遂行し、生徒が自己の学びを適切に発信する表現力を育成する。	① 他者の意見を聞き、自分の考えを修正して学習の改善を図る活動を中心に取る。 ② 自分の考えを他者に説明し、理解を深める取り組みを取り入れて授業改善を図る。	① グループワークなどの活動を通じて、自身を振り返りながら考えを深める場面を設定する。 ② ICTを有効活用し、ペアワークで教えあうなど、生徒同士で理解を深め合う活動を取り入れる。	① 授業評価で「自分の考えをまとめ、課題の解決方法について深く考える場面がある」の評価4が60%を超えたか。 ② 授業評価の「他者の考えを知ることによって自身の知識や考えを広げ深めている」の2項目について学校全体の平均が3.5を超えたか。	①授業評価で「自分の考えをまとめ、課題の解決方法について深く考える場面がある」の評価4は56%で60%を超えることはできなかったが、評価4と3の合計では95%と高い評価を得た。 ②授業評価の「他者の考えを知ることによって自身の知識や考えを広げ深めている」の2項目について学校全体の平均が3.5に僅かに届かなかった。	①評価4をさらに高めるために今年度の結果を各教科で共有・検討し、次年度に活かす。 ②授業評価の「他者の考えを知ることによって自身の知識や考えを広げ深めている」の項目で、学習の項目（生徒自身の項目）のポイントを高める工夫を学校全体で取り組む。	グローバル教育研究推進校として授業改善を進めている成果が表れているようだ。教員同士が授業について話し合う機会が増えているということなので、今後も継続してさらなる授業改善に臨んでほしい。	目標の数値には届かなかったが、各項目の授業評価の結果は、年々上がってきている。生徒の項目の方が全体よりも少し低い傾向にある。教員間での情報共有は各教科でもしっかり取り組んでいる。	まだ、生徒自身の項目が低いところがあるので、生徒自身が「できる」を実感できる授業を目指していきたい。他教科の授業も見学に行けるような取組も行っていきたい。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育相談体制を充実し、安心して高い目標に挑戦できる学校づくりを進める。 ②生徒の心豊かな人間性、規範意識を高める。 ③特別活動等を通じて、他者と協働して集団のために貢献できる力を身に付けさせる。	① 生徒の多様性を尊重した教育相談体制づくりを進める。 ② 交通安全指導や身だしなみ指導を通し、規範意識を高める。 ③ 学校行事や部活動を通して、他者や地域との協働意識を高める。	① SC、SSWの活用を進め、情報共有し、組織的な支援体制を整える。 ② 交通安全指導、身だしなみ指導を通年で計画的に実施する。 ③ 学校行事や部活動が生徒主体で活発な活動となるよう支援する。	① 教育相談の結果で、「問題が解決した」「好転している」が昨年度85%より多かったか。 ② 交通安全指導、身だしなみ指導が計画的に実施できたか。 ③ 学校行事やアンケート結果で「とても良い」「まあまあ良い」の割合が90%を超えたか。	①教育相談のアンケート結果では「問題が解決した」「好転している」が合わせて92%と昨年度より良い結果となった。 ②交通安全指導として、定期的に登校時の交差点指導を実施した。季節の寒暖に応じた日程調整をするなど、教員側の働き方にも配慮して、臨機応変に対応することができた。 ③体育祭のアンケートの結果、「とても良い」「まあまあ良い」の割合は97.8%、文化祭では98.5%と生徒の満足度は高く、生徒は積極的に活動できたようである。	①教育相談の内容も多様化し、そのニーズも年々高まっている。生徒からのSOSを適切な時期に拾い上げられるよう、サポートドッグ等を活用しながら取り組んでいく。 ②交通安全指導は引き続き計画的な実施を継続する。冬季には服装指導も併せて実施していく必要を感じた。 ③本年度から文化祭で電子決済を取り入れた。また、コロナ禍で中断されていた、地域の施設との交流も再開した。今後の文化祭においても生徒の活動の支援となるような取り組みを進めていきたい。	交通安全指導について評価はするが、自転車乗車時のヘルメット着用などさらなる指導と生徒の安全意識向上を期待する。文化祭でのキャッシュレス化について評価したい。	本校の自転車ヘルメットの着用率は、令和7年6月の調査では3.0%に留まっている。本年度は着用率の向上を図りたい。キャッシュレス化は生徒、教員ともに業務軽減になった。次年度も継続したい。地域の施設との文化祭での交流については空白期間が長かったために十分なプログラムが組めたとは言えなかった。	交通安全講座や定期的な働きかけを継続し、自転車ヘルメットの着用率10.0%を目標とする。地域の施設との文化祭の交流についてはより生徒が参加できるようにプログラムを充実させたい。
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが、進路意識を深めることのできるキャリア教育の充実を図るとともに社会貢献意識を醸成する。 ②生徒個々の学力及び進路、受験に関するデータ分析を行い、それを学校全体で共有し、活用するための方策を工夫する。	① 高い進路意識を醸成し、希望の進路を実現できるよう、組織的に取り組む。 ② スタディサポートの導入により、より多い情報の共有と指導の改善を図る。	① 職員全体で生徒の高い進路意識を育てるための情報共有と取組を組織的に実施する。 ② データ分析とともに、教員、生徒保護者への適切な情報の配信と共有を図る。	① 生徒の進路目標がより高いものとなっているか。 ② 情報提供が適切な時期に適切に行われたか。	①学年ごとの進路ガイダンス、大学説明会・大学訪問・分野別説明会、合格者体験講演会等を通じて、生徒の進路に対する意識を向上させた。 ②各種模擬試験を行い、生徒の学習到達度に関する情報を収集し、教員間で共有するとともに、進路説明会や結果通知書を通じて生徒と共有した。また、保護者対象進路説明会や三者面談を通じて保護者への進路に関する情報提供を行った。	模擬試験に対する意識の向上、学習の個別最適化を目指して、AIを活用したツールの試行を行ったが、導入には至らなかった。ツールの導入に頼らずに、教員間の同意を得ながら、模擬試験に向かう学習姿勢を養成する方策を探る必要がある。また、総合型選抜希望が増加傾向にあり、対応を考える必要がある。	大学の入試方法の多様化が進んでいると実感した。「大学で学ぶ楽しさ」をアピールするような講演会を実施して、生徒の進学意欲を刺激してほしい。	各種説明会や講演会等を行うことで生徒の進路意識を高め、各種模擬試験を行うことで、自分の学力を客観的に把握できる環境を整えているが、より生徒の進路に対する取り組み方を強化する必要がある。	講演会をより生徒の進学意識を刺激するようにする。校内実施の模擬試験については準備をして臨むよう促す。また、増加傾向の年内入試サポートを丁寧に行う。

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①様々な面で地域との連携を強化し、社会に開かれたカリキュラムマネジメントを推進する。 ②地域と連携して防災体制の整備に努めるとともに地域の環境美化にも積極的に取り組む。	① 地域のイベント参加のみならず、地道な活動を続け、地域との連携を強めていく。 ② 地域と連携した防災訓練や海岸清掃を積極的に行う。	① 地域の行事等に学校として組織的に関わり、地域と密な関係を構築する。 ② 防災訓練や海岸清掃を通じて本校の魅力を発信する。	① 地域との積極的な交流が、計画通り実施できたか。 ② 防災訓練や海岸清掃への参加が計画通り行われ、参加者が昨年より増加したか。	①大磯町・麻布大学の連携協定による催しで、「台町地区の薨刈」「シンポジウムにおける取組の発表」等参加することができた。また、3月には昨年度に続き島根県で行われる教育プログラムにも参加予定である。 ②大磯町と連携しノジマスクエアでの宿泊防災訓練、地区自治会との合同防災訓練などを実施した。津波を想定した避難訓練では、校内の上の階への垂直避難のほかには国道1号線までの一斉避難訓練を今年度初めて計画したが雨天中止となった。また、毎年恒例のPTAとの協働活動である「海の日海岸清掃」を多くの有志生徒、保護者、職員で実施することができた。	①学校の行事との関係もあり、うまく参加できない行事などもあった。今後、それらの調整をして生徒が積極的に参加できるよう工夫していきたい。 ②様々な状況や場面を想定した防災訓練、避難訓練を実施し、万が一の災害に備える。生徒防災委員を防災リーダーに育成する方策を考える。 「海の日海岸清掃」はボランティア活動として定着している。	海岸清掃は今後も実施してほしい。 残念ながら、大津波訓練は雨で中止となったが、次年度はぜひ実施してほしい。 防災委員を中心に町と協力して地域のハザードマップを作成するとよいと思う。	大磯町・麻布大学の連携協定による催しでは天候により参加できないこともあった。 防災計画に基づき様々な避難訓練を実施できた。津波想定の一斉避難訓練は雨天中止となったが、避難経路を考えさせるなど防災意識向上の啓発となった。	地域の行事等を生徒に周知することで参加を促し、地域の理解とともに連携を深めていきたい。 今後も大磯町や地域と連携した防災訓練や美化活動を実施する。雨天中止となった津波想定一斉避難訓練は実施時期等も含めて計画する。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事の防止を徹底する。 ②ICTを活用して校務の一層の効率化を図るとともに、個人情報の保護などの取組を推進する。 ③WEBサイトや学校説明会等における情報発信を適切に行う。	① 研修を通し、事故、不祥事を未然に防ぐ。 ② 働き方改革を推進し効率的な業務改善を図る。 ③ ホームページの更新を適切に行い、学校の情報を発信する。	① 当事者意識を持つために研修形態を工夫する。 ② 職員の業務負担感を減らし、やりがいや達成感を感じられるよう、業務の効率化を図る。 ③ ホームページの更新に努め、本校の魅力がより伝わるよう改善に努める。	① 月1回の研修が不祥事防止の意識を高める内容で実施できたか。 ② 勤務時間管理システムを活用し、月45時間以上の時間外勤務を行った数を昨年度より減少させる。 ③ ホームページの更新回数が増えたか。	① 職員会議後に不祥事防止研修を実施した。若手職員にコメントしてもらい、当事者意識を高めることができた。 ②月45時間以上の時間外勤務を行った人数を減らすことはできなかった。 ③学校説明会等のアンケートにおいて、適切な情報が得られたという肯定評価が95%以上であり、本校の魅力発信と入試の倍率上昇に繋がったと考えられる。	①研修が形骸化しないよう努める必要がある。 ②働き方改革のさらなる推進のため、職員の意識を変えるための研修などを実施する。 ③今後もホームページの更新に努め、本校の魅力がより伝わるようにする。	働き方改革についての職員の意識を変えていくことは難しいところがある。やらなくてもよいことはやらないようにするなど、業務を精選することも必要である。	不祥事の防止には、研修だけでなく日常で気になることをそのままにしないことが必要である。 働き方改革では、業務内容、量について見直しを行っていく。 学校説明会のアンケートから、本校ホームページを、多くの中学生や保護者が見ていることがわかった。	不祥事防止について研修時だけでなく、日頃の声掛けも含めて意識を高めていく。 業務内容の見直しを早期に行い、働き方改革につなげていく。 今後もホームページトピックの更新に努め、本校の魅力がより伝わるようにする。